



# 向陵広場

発行号 第03号  
 発行日 平成 28 年 10 月 13 日(木)  
 発行元 向陵編集校友会  
 責任者 伊藤有司 (県 10 回卒)

## 遠藤安太郎氏の徳を称えて

本校には創立90周年の際に収蔵した多くの記念物品があり、「豊商博物館」として産振棟一階の教室に展示されていた。しかし、教育課程改編により分割授業の為に多くの教室を使用するようになり、さらに耐震工事等により展示場も閉館となった。その後、これらの収蔵品は一か所に集めて保管されている。それらの収蔵品を随時紹介します。

「故遠藤安太郎氏の  
 徳を称えて」  
 私立豊橋商業学校  
 第 12 代校長  
 澤 三郎




私立豊橋商業学校は昭和8年3月に第25回卒業生をもって廃校となり、その際に澤三郎校長が遠藤安太郎氏を称えたものである。卒業生 1,374 名である。



松葉公園の北東角  
 地下駐車場入り口  
 の所にあります

ノ主タル生業ガ商工業ノ二途ヲ出テザルニ拘ハラズ其産業發展ヲ助長スベキ實業教育機關ナキヲ遺憾トシ、氏ハ其ノ關係セル豊橋地方實業家九百名ヨリ成ル豊橋實業談話會ヲシテ明治卅三年九月、同卅四年十二月、同卅五年六月ノ三回ニ亘リ渥美郡長ニ對シ郡立商業學校ノ設立ヲ請願セシメ又一面明治卅四年三月、同卅七年一月ノ二回ニ亘リ豊橋町長ニ町立商業學校ノ設立ヲ請願セシメシノミナラス豊橋商業會議所ヲシテ明治卅四年二月、同年十一月、同卅六年十月ノ三回ニ亘リ豊橋町長ニ對シ町立商業學校ノ創立ヲ建議セシムル等實業教育機關設置ノ氣運醸成ニ極力努メラレシモ時期尙早ニシテ實現ノ好機ニ接セザリキ。然ルニ日露戰役後各地商工業ノ勃興ヲ見ルニ至リテ實業教育機關設置ノ必要一層痛切ナルモノアルニ及ビテハ最早徒ニ日ヲ曠シクスルニ忍ビズ遂ニ奮然蹶起獨力ヲ以テスルモ素志ヲ貫徹セント決心シ、先ヅ巨額ノ私財ヲ投ジ一面江湖ノ援助ヲ仰ギテ明治卅九年四月廿九日豊橋市瓦町不動院境内ニ生徒定員二百五十名ノ私立豊橋商業學校ヲ創設セラレタリ。而シテ創立當時同校ノ經營ハ頗ル困難ニシテ遠近同志ノ援助ヲ求ム可ク校主自ラ日夜東奔西走具ニ辛慘ヲ嘗ムルコト幾春秋、其苦心努力ハ遂ニ酬イラレテ漸次同校ノ發展隆昌ヲ見ルニ至レリ。又故人ノ子弟教育ニ當ルヤ所謂「以信爲本」ノ大方針ニ依リ多忙ノ身ヲ以テ自ら教壇ニ立テ或ハ精神訓話ニ或ハ實業界ノ實狀ニ關スル講話ニ言々肺腑ヨリ出テ、聽者ヲ魅了セシ其薰化ハ年々幾多有爲ノ卒業生ヲ輩出スルニ與テ力アリタリ。惟フニ故遠藤安太郎氏ハ本市商業教育ノ創始者ニシテ恩人ナリ、ソノ私立豊橋商業學校創設ノ前後十有五箇年ノ長キニ亘レル苦心努力ハ其献身奉仕ノ偉大ナル精神ト共ニ吾人ノ感佩惜ク能ハザルトコロナリ。爾來校運歲ヲ追フテ隆昌ニ赴キ校主ノ德望愈々高カリシ惜ムベシ天此偉人ニ歳ヲ假サズ故遠藤校長ハ大正二年十二月四十六才ヲ以テ永眠セラレ私立豊橋商業學校ノ經營ニ一頓挫ヲ來タシタリ。然レドモ流石ニ偉人ノ徳ヲ俾ビテ來リ學ブ者多ク時勢ノ進運ハ同校内容ノ充實ト相俟ツテ校運ノ隆昌ヲ致セシガ同校創立十有七箇年ヲ経タル大正十二年ニ至リテ本市商業教育ノ後繼者ト見ルベキ豊橋市立商業學校設立セラレ故遠藤校長在世中ノ主張實現シテ同校存続ノ意義薄ラギシト財界ノ不況ニヨリ入學者ノ減少及遠藤家ノ都合トニヨリ昭和七年度末ヲ以テ私立豊橋商業學校ハ愈々廢校トナルニ至レリ。此間卒業生ヲ送ルコト實ニ廿五回、其ノ總數壹千三百八十餘名ヲ算ヘ本市ハ勿論關東關西遠クハ海外ニ迄幾多ノ人材ヲ輩出シ、目下夫々社會ノ各方面ニ活躍貢獻シツ、アルハ一ツニ故校長遠藤安太郎氏ノ偉大ナル人格及熱烈ナル愛郷心ノ致ス所ニシテ本市商業教育創始者トシテノ偉勳ハ光輝アル同校二十七箇年ノ歴史ト共ニ吾人ノ永久ニ忘ル、能ハザルトコロナリ。



慧眼ナル故遠藤安太郎氏ガ豊橋ヲ核心トセル東三地方商業發展ノタメ公立商業學校設立ノ企圖ニ着手セラレシハ明治三十一年同氏三十一才ノ頃ナリキ。當時沼津、静岡、濱岡、濱松、四日市、名古屋等ハ既ニ公立商業學校ヲ有シ其卒業生各方面ニ雄飛シテ該地方商業發展ノタメ大イニ貢獻セル狀勢ナルニ獨リ我ガ豊橋ハ隣接地方ヲ合シテ三萬以上ノ人口ヲ有スルシ、河ノ主都ニシテ其

本市商業教育創始者トシテノ故遠藤安太郎氏

私立豊橋商業学校長 澤 三郎